

第8回市立加西病院ホスピタルフェア

「来て！見て！感じて！加西病院」をテーマに、下記日程でホスピタルフェアを開催します。参加費は無料です。今回、ボランティア事業としてペットボトルのキャップを集めています。ぜひ、ご協力ください。

■日時・場所／6月25日（土）9:00～12:00 市立加西病院1階、2階

■主な催し／楽しいフラダンス：三浦美香フラダンス教室加西グループの皆さん

クラリネット＆ピアノコンサート：内科医師による演奏会

医療相談コーナー：研修医ふれあい、ドック相談

パネル展示：病院の活動・取り組み、認定看護師紹介など

健康チェックコーナー：血圧、血糖、体脂肪、動脈硬化度、骨密度測定、聴力など

体験コーナー：健康飲料試飲、心配蘇生法、腹臥位療法、医療者制服着用体験など

講演会：終末期医療について（講師／山邊裕 病院事業管理者・院長）



人気の医療者制服着用体験コーナー

※注意事項／動脈硬化度・骨密度測定は、当日に抽選。抽選は時間毎に行い、先着順ではありません。

【問合先】 加西病院総務課 ☎④2200 FAX④3460 byoin@city.kasai.lg.jp

町ぐるみ健診肝炎ウイルス検診のお知らせ

ウイルス性肝炎とは、肝炎ウイルスに感染して肝臓の細胞が壊れていく病気です。この病気になると徐々に肝臓の機能が失われていき、ついには肝硬変や肝がんに至ることもあります。

自覚症状がでない場合も多いため検診で早期に発見し、治療を受けることが大切です。市では町ぐるみ健診で下記のとおり肝炎ウイルス検査を実施しています。ぜひこの機会に受診をしてください。

■対象／40歳以上の市民で過去に肝炎ウイルス検査を受けたことがない方

■実施日／町ぐるみ健診実施日（詳細は広報かさい4月号と同時に配付した健診特集号及び町ぐるみ健診申込書、または市ホームページをご覧ください）

■場所／農協会館（JA みらい本店横）

■実施方法／血液検査

■料金／600円※無料対象あり

■申込方法／町ぐるみ健診申込書に記載し、下記へ郵送または、市役所1階国保健康課窓口へ

【無料対象者】

・平成23年度に40歳、45歳、50歳、55歳、60歳になる方

※対象の方には別途お知らせします（過去に町ぐるみ健診等で肝炎ウイルス検査を受けられた方は除く）。

・75歳以上の方（昭和12年4月1日以前生まれ）

・市民税非課税世帯の方、生活保護世帯の方

※健診5日前までに市国保健康課で申請手続きをしてください（身分証明書と印鑑を持参）。

※町ぐるみ健診申込書は農協、アステアかさい、各公民館、健康福祉会館、市役所1階国保健康課窓口にあります。

※既に町ぐるみ健診をお申込みの方は、当日追加で申し込むことができます。

【問合先】 国保健康課健康担当 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

8020達成者表彰のお知らせ

いつまでも美味しく食事を楽しめるように、80歳になっても20本の歯を残すようにしましょう。これが「8020（はちまるにいまる）運動」です。達成している方を表彰します。ぜひお申し込みください。

※申込みには事前に市内歯科医師会員の各歯科医院または町ぐるみ健診での歯科健診が必要です。申し込みされた方には詳しい歯科健診の案内を後日郵送します。

■対象／80歳以上の市民の方（昭和7年4月1日以前生まれ）で、自分の歯が20本以上残っている方。
※ただし、以前に表彰を受けられた方は申込みできません。

■申込締切／7月15日（金）

【問合先】 国保健康課健康担当 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp



加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

『市立加西病院・訪問看護ステーション』

■病院医療と訪問看護

加西病院は、この4月に訪問看護ステーションを設置しました。今回の本コーナーは、病院医療と訪問看護が目指すものについてご理解いただく内容です。

加西病院は市内唯一の急性期病院であることから、救急疾患、入院を要する重症疾患、専門診療の必要な疾患は本院が担わなければならない重要な役割です。特に急性期治療を行う入院機能は重要です。市民の病院への要望は多様ですが、これら他に代えられない役割を損なわないよう舵取りが必要と考えています。一方、訪問看護は、在宅で医療や介護を受ける方に医療の相談、病状の把握と対応、簡単な医療処置、看護業務を行うことが役割です。

訪問看護師に指示を与える在宅医療の担い手は地域かかりつけ医である診療所の先生方です。加西病院の勤務医が診療所の先生に代わって在宅医療を行うことはありません。にもかかわらず院内に訪問看護ステーションを設置した理由は何でしょうか？

■訪問看護ステーション設置の目的

加西病院が訪問看護ステーションを設置した目的は二つあります。現在国が進める医療制度改革では、急性疾患の入院期間を短縮し、早期に在宅ないし回復期施設に移る誘導が行われています。しかし、入院中の患者、ご家族に国の仕組みをなかなか受け入れてもらえない場合があり、病院から在宅医療に少しでも移り易い環境を整えることが第一の目的です。

第二の目的は、在宅看取りに関係します。日本人は戦後まもない1950年代には8割以上の方が自宅で死を迎えていました。しかしその率は急激に低下し、現在では自宅死は1割にも満たない率です。反対に病院で亡くなる人は8割を越えています。本来命を助けることが役割の急性期病院で看取りまで受け持つことは、ただでさえ足りない急性期医療の人手を不足させ、医療機能や安全体制を損ないます。

このため国は看取りを病院から在宅に誘導するよう、平成18年に“在宅医療支援診療所”の制度を導入しました。幾つかの診療所が組になって、在宅看取りを24時間カバーする仕組みです。しかしこの制度もうまく機能しているとは言えません。加西市では診療所の先生方が往診診療で自宅での看取りに対応くださっています。

■在宅看取りの幾つかの課題

日本人に自分の死に場所は何処が良いかアンケートを取ると、半数以上の方が自宅と答えます。にもかかわらず在宅看取りが進まないのには幾つかの理由があります。一番大きいのは核家族や老々家庭のために、自宅死の看取りを担う同居人が居ないことです。これが最難関の問題です。一方看取る家族がいる場合でも「死を看取ったことがないので、死を看取れない」という同義反復のような障壁が存在しています。訪問看護ステーションが取り組むべき課題と言えます。

そう思うのは病院で二次救急を担っていると、次のような不条理に出遭うことがあるからです。

がんの末期、本人も家族も自宅で最期を迎えることを望んで在宅医療を受けているが、かかりつけ医に相談できない夜間休日に断末期を迎えた時、家族がどうしてよいか分からず119番の救急車を呼んでしまうのです。救急隊の使命は救命することです。直行した救急隊員は息の途絶えかけた患者に気道確保を行い、心臓マッサージしながら病院に搬送して来ます。結果、病院到着時死亡のこともあり、蘇生してしまうこともあります。いずれの場合もその後に不条理な過程が待っています。その不条理は古い法制と家族の死をみなくなった現代の矛盾が起す軋みであると言えるのですが、尊厳ある死とは相容れません。

とは言え、加西病院に生まれた訪問看護ステーションは、このような大問題を扱うには可哀想なくらい小規模のステーションに過ぎません。しかし組織は小さくとも大志を抱いて、診療所の先生方、他の訪問看護ステーション、在宅支援事業所の方々と連携を取りながら、加西市民の幸福のために活動したいと願っています。市民の皆様にはご理解とご利用をお願いする次第です。

（病院事業管理者・院長 山邊裕）



訪問看護ステーションのメンバー

■市立加西病院の救急医療受け入れ一時停止について

分電盤追加接続工事に伴う停電ため、下記日程で救急医療の受け入れを停止します。大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

停止日時／6月4日（土）9:00～12:00

問合先／市立加西病院医事課 ☎④2200

